

# 30トクラスの大型フォークリフト導入

## 2台目の固定床炉が稼働

### PCB廃棄物処理能力が倍増

群桐エココ

群桐グループの群桐エココ(太田市新田大町600-26、山口博社長)は、このほど、低濃度PCB廃棄物専用固定床炉(2号炉)に最大荷重30トの大型フォークリフトを導入した。これまで使用していた最大荷重23トのフォークリフトを代替するもの。16年4月から稼働

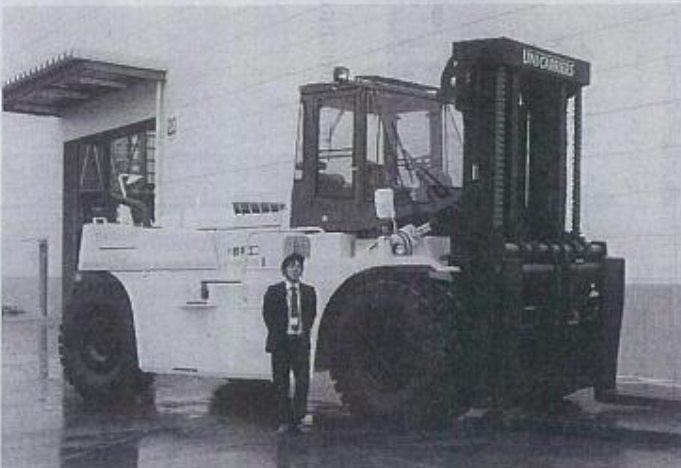
した専用固定床炉(2号炉)へPCB無害化処理のため搬入される大型廃電機器の荷役・運搬に利用する。また、同社は2台目の専用固定床炉(3号炉)を3月1日に稼働開始し、2系列の処理体制となり、処理能力が増した。

今回導入した大型フォークリフトは、ユニキャリア製FD300。定価は約5800万円。港湾でのコンテナ荷役などに使用されるエンジン式大型フォークリフトで、内陸施設で導入・使用されることは全国的にも珍しいという。

専用固定床炉の稼働に合わせて、23トクラスのフォークリフトをリースして使っていたが、最大荷重が高くなることに伴い、トランスやコンデンサなど約10〜17、規模の大型廃電機器の荷役・運搬作業の安全性や作業効率などが向上する。

FD300は、高出力エンジンの搭載、オペレーターが車両から離れた場合、自動的に走行・荷役を完全にストップする荷役インターロックの標準装備、広視界の確保などの特徴を持つ。

同社の専用固定床炉は、大型廃電機器などを解体せずに床内へ搬入、高温処理することで、PCBを無害化処理でき

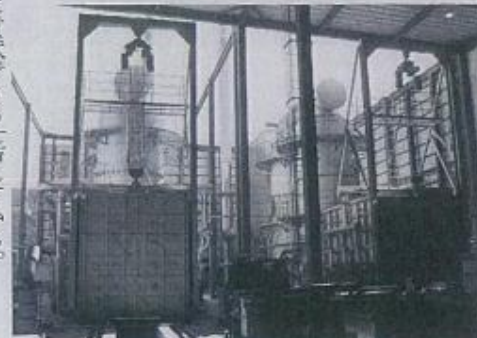


最大荷重30トの大型フォークリフト「FD300」

る。3号炉の稼働に伴い、1日当たりの処理能力は廃電機器が42ト、廃油が8・4トに倍増。環境大臣の認定を受けた施設の整備が完了した。

山口社長は「3号炉の稼働、30トフォークリフトの導入により、当初計画した体制が整った。今後もPCBの適正処理について、より安全・安心を追求する」とともにサビスの向上に努め、顧客や地域に貢献できる」と話している。

(久間田貴志)



PCB廃棄物専用固定床炉の2・3号炉